



《経営管理》 D P C 公開データにおける患者構成指標

<項目解説>

各病院の患者構成を視点とし、複雑な患者さま（診断群分類点数表の入院期間Ⅱの長い患者）をより多く診療していることを評価します。D P C の入院期間Ⅱはほぼ全国平均の在院日数+1日ですが、入院期間Ⅱが長いほど、退院までに日数を要し、一般には治療の難しい状態の患者さまであると考えられます。脳腫瘍や頭頸部腫瘍の化学療法、出生体重 1,500 g 以下の新生児等で入院期間が長くなります。

この指数は、厚生労働省が年 1 回発表する D P C 制度導入の影響調査における「患者構成指標」を使用しております。数値は 1.0 が全国平均であり、大きい方がより難しい状態の患者さまを多く見ていることを示します。

<当院の実績>

【平成 23 年度】	0.91
【平成 24 年度】	0.94
【平成 25 年度】	0.95
【平成 26 年度】	データ公開されていません

<当院の自己点検評価>

病気の種類や重篤度によって想定される入院日数は異なります。

たとえば、白内障の手術などでは 1 泊 2 日程度で退院できる方も多いのですが、心臓バイパス手術や胃がんの開腹手術を受けた多くの方は 1 ヶ月以上の長期入院が必要です。

また、同じ原因の病気であっても基礎体力や合併症の有無などによって、入院治療に要する期間は自ずと異なるという大前提はありますが、今後も「在院日数指標」や「患者構成指標」の向上に努めてまいります。

<定義>

厚生労働省の D P C 評価分科会の公開データ

<算式>

患者構成指標

(各病院における実績に基づき、厚生労働省にて算出)